

# 真宗大分

## 新年のご挨拶

大分教区教務所長

野川大卓



新年明けましておめでと  
うございます。

皆様におかれましては、お  
念仏とともに新年をお迎える  
ことと、お慶び申し上げます。  
私こと、このたび12月1日付  
をもちまして、大分教区教務

第127号  
創刊 昭和41年8月  
発行所  
大分教区基幹運動  
推進委員会  
〒874-0920  
別府市北浜3丁目6-36  
本願寺別府別院内  
TEL 0977-22-0146

宗祖親鸞聖人は、ご和讃に  
「如来の作願をたづぬれば  
苦悩の有情をすてずして  
回向を首としまひて  
大悲心をば成就せり」  
と告示です。

親鸞聖人の教えは、阿弥陀  
如来の願いが本であります。  
阿弥陀如来は、苦悩するこ  
とを知らない私の姿をご覧に  
なられて、智慧と慈悲のはた  
らきであるお名号を、私に届  
けてくださいます。それを受  
け止めさせていただいて、生  
きる依りどころにさせていた  
だきましよう。  
平成23年には宗祖親鸞聖人  
750回大遠忌法要が厳修さ  
れます。宗祖のお心を体し、  
皆様とともに「人生の喜び、  
お念仏の喜び」をお伝えする

お手伝いをさせていただきま  
す。

浅学非才の若輩者でありま  
すゆえ、責務を果たすことに  
不安を覚えますが、ご指導ご  
鞭撻を賜りますようお願い申  
上げまして、就任のご挨拶  
とさせていただきます。

## 退任のご挨拶

前教務所長

寺井紹道

新年明けましておめでと  
うございます。

私こと、この度12月1日付  
をもちまして大分教区教務所  
長・別府別院輪番・藤山教堂  
主管を退任し、北海道教区教  
務所長・札幌別院輪番として  
赴任することとなりました。  
大分教区にお世話になって、  
アツと言つ間の2年間でした。  
教区賦課制度の抜本的見直

しや過疎化・高齢化・少子化  
における念仏繁盛・基幹運動  
の推進等、取り組まなくては  
ならない問題は山積してあり  
ます。

教区将来展望委員会(仮称)  
なるものを立ち上げ、総合的  
に問題解決を図るべく計画を  
練っている最中の離任であり  
申し訳なく思っております。  
後任の教務所長と一致団結し  
て事に当たっていただきたく  
お願い申し上げます。

「大分の二度泣き」という  
言葉があります。

大分に赴任を命じられ泣く  
泣くやってきたが、その住み  
良さにすっかり魅了され、任  
期が切れ大分を離れなければ  
ならないときに、また泣かな  
ければならない程気に入つて  
しまったことをこつ呼びます。  
惜別の涙を一杯流しながら  
愛する大分を離れます。

本当にお世話になり有り難  
うございました。

合掌

# 大谷光淳新門様 大分教区ご巡回並びに別府別院ご巡拝

9月28日と翌29日、大谷光淳新門様が流豆美新裏方様とご一緒に大分教区ご巡回並びに別府別院(28日)と四日市別院(29日)をご巡拝になりました。新門様は大遠忌の

お待ち受け機運の高揚とご法要の円成を期して、各教区の巡回並びに直属寺院のご巡拝をされています。ここでは別府別院での巡回並びにご巡拝をご紹介します。



午前11時45分から、帰敬式が執り行われ268名が受式、厳かな雰囲気の中、緊張気味の受式者一人一人におかみそりを当てられました。午後2時から記念式典が開催され、教務所長、随行総務が挨拶をされ、新門様がお言葉を述べられました。式典終了後、浅井



成海随行講師が記念法話をされました。

午後3時30分から教区の集いが開催され、教区の現状、組の問題(過疎、高齢化、連研等)、寺院での活動状況、仏壮・仏婦諸団体の状況とこれからの活動、キッズサンガ等、時間が足りなくなるほどの多くの意見が出されました。最後に新門様が出された意見に心えつつ社会の諸問題、取り巻く現況を踏まえて教団についての思いを語られました。

午後6時30分から会場を杉乃井ホテルに移し、和やかな雰囲気のもと懇談会が開催されました。今回、参拝して、ご勝縁を共に慶び、来る大遠忌の円成を期し、またこれからの教団を取り巻く現状を憂い、各寺にあつては、その寺院の開基の願いに立ち返り共に慈光のもと歩みをすすめていくことをあらためて思ったことでした。



## 『以和爲尊』

各組めぐり

深見組

### 組の構成

深見組は、宇佐市の南の端安心院町内に有り、昭和30年に安心院町・津房村・佐田村・深見村の一町三村の合併で安心院町が組織されております。この町内に津房組と深見組の二組があり、深見組は深見村のみの一村一組で構成されており、南北11軒、東西7軒の村で、総戸数(約500戸)の9割が真宗門信徒です。往古豊前門徒の一角としてのこ法義繁盛ぶりが忍ばれます。



しかし、深見組9ヶ寺(総門徒戸数は約260戸で、外は他組寺院の門徒)は村の中心から半径4軒以内であり、大分教区18組中、全てが一番小さい組です。

## 組の行事

従って1組1ヶ寺という意識の中で、全ての教区行事、組の行事の計画執行は全住職が賛成、全員参加を原則として諸行事を行っております。組の行事の主なものに深見組宗祖降誕会法要2日間(始まつたのは百年以上前からだと思われるが詳細不明)が毎年4月20・21日(1ヶ月引き上げ)で勤められておりましたが、現在はブドウ栽培や農作業の都合で6月下旬2日間(1ヶ月引き下げ)毎年各寺院持ち廻りで参詣も多く盛大裡に執行されております。

次に明治年間より毎月布教会法要(1日)を各寺持ち廻



りで行われており、布教は組内法中で前席は若年の住職、後席は熟年の住職が布教し、若い僧侶の布教の勉強のご法要が行われておりましたが、戦後農業以外の仕事に出稼ぎする人が多くなり、時代の変化に伴い徐々に参詣者が少なくなりこのご法座が勤まらなくなってきたので、毎月の法中会に切替え、本山教務所からの伝達事項、協議事項等の話し合いの場となり、現在は年8回の法中会には住職全員が参会し、午後7時半より話し合いがもたれ、教義問題や特

に基幹運動諸問題の話になると時間を忘れ時には深夜に及ぶ事もあります。

組内寺院のほとんどが門徒戸数が20戸前後の寺で生計及び子弟の教育等のため、住職坊守共に職を求め兼職しておられるので、会合、諸行事の日程調整が困難を極めております。この様な状況の中でも、毎年宗祖降誕会法要総代研修会、仏教婦人の集い(仏教婦人会員に限らず)等の研修会に多数の参詣者あり盛大且つ好評に実施されています。尚、その外の教化活動の活性化を目指して皆で努力しております。

## 組の互助制度

古来、組内ほとんどの寺院は田畑を耕作し、農業と法務で生計を営んでおり、昭和20年代までは、教区費の宗費賦課金の滞納寺院があり、本山への願記申請に支障を来し、

1年滞納すれば2年目には倍額となり、益々全額納付が困難になる事を当時の組長が憂い全住職と協議し、組会計から貸付し、完納無事解決出来たので、これを機会に全寺院の教区費、宗費賦課金を一括組会計から期限内に完納し、各寺院は当該年度内に組会計へ分割納入の制度を実施し、現在まで続いており、現在では、一括又は分割で組会計へ返済されております。

## 終わりに

宗祖親鸞聖人750回大遠忌法要が目前に迫ってきました。当組には平成15年10月に光真門主の組巡教以来、大遠忌に対する意識が高まり、尚、昨年9月には光淳新門さまの四日市別院ご巡回に際しては当組内門徒多数の方が参拝され、益々意識が高まってきました。おります中で、本年6月に大遠忌お待ち受け法要を行う予

定です。尚、平成23年11月に団参を計画しており、日程、行程等も決定しており、組内法中は募集に動いておられます。

以上、色々述べましたが、小さい寺は小さいながら、全ヶ寺お互いに手を取り合い、肩を寄せ合って常に組の運営活動等は和をバックボーンに徐々に前進しております。

和らかなるをもつて  
貴しとなし

南無阿弥陀仏



## 新門様 ご巡拝

本願寺四日市別院  
輪番 山田 孝之

新春のお喜びを申し上げます。

平素より、本願寺四日市別院護持にご尽力賜り、心よりお礼申し上げます。本年もお念仏薫る新しい年を迎えられますこと喜びに耐えませぬ。

さて、昨年は、新門様ご巡拝行事におきまして、大分教区寺院ならびに門信徒の皆様にも、多大のご迷惑をおかけしましたのにもかかわらず、ご協力いただきお礼申し上げます、お蔭さまで誠に盛大のう



ちに終わることが出来ましたこと、誠に有り難うございました。

総参拝者数850名(内帰敬式受式者488名)という状況であり、参拝者の方々には大変ご不自由をおかけしたことでありましよう。お詫び申し上げます。

新門様新裏方様をはじめご一行様が御送迎に当たり、お一人お一人にお声掛けいただきました。驚きでありました。特にお帰りに際しては、写真撮影の要望に快く足を止めていただいたり、慈光保育園の園児には、同じ目線まで腰を下ろしていただき、一人一人とことばを交わしておられました。

子どもたちには、これが大きな宝物になり、きれいな花が咲いてくれることだと思えます。より身近に親しみを感じましたのは、私だけだったでしょうか。

このご法要を機縁とし、親鸞聖人750回大遠忌法要が盛大のうちに円成されますよう念じております。

最後になりましたが、本願寺四日市別院に於きましても、お待ち受けのご法要を12月に予定しておりますので、お参り方よろしくお願ひします。  
みな共々にお念仏の薫る生活を送られますことを念じております。



## およろこび記事

### 【法 要】

大海組 威徳寺  
十月十八日(日)  
住職継職奉告法要

宗祖讃仰作法  
講師 東光 爾英師  
(司教・大海組徳應寺)

大野組 正龍寺  
十月三十日(土)一日(日)  
本堂修復落成慶讃法要

親鸞聖人七五〇回大遠忌  
お待ち受け法要  
蓮如上人五〇〇回遠忌法要  
講師 寺井紹道師  
(教務所長)

## おくやみ

次の方々がご逝去されましたので、生前のご苦勞を偲び謹んで敬申の意を表します。

川谷 崇晃(平21・11・12)  
下毛中組 宗林寺 前任職

東光 寛英(平21・11・14)  
大海組 徳應寺 住職

## 編集後記

I・C・Uで、ご縁にある方を看取る事になってしまいました。こんな事になるとは思わず、泣きながら足をさすっていました。いろんな機械に囲まれ、画面には、全ての数値が出ています。落ち着いている時にはあまり数値は見ないのですが、状況が悪くなると、数値がドンドン変わります。そうすると、側にいるものの目は、画面に釘づけです。何とか持ち直して欲しいと思う家族の思いが、画面を見ているのですが、人の死が機械の数値で表されると思うと、最後は機械のピーでおわりです。その方の息遣いをじっと見てのお別れではありませんでした。人の死を機械で左右された様な腹立たしさと、その方がどう生きてこられたか、生き様が大切に死に様は問わない、という思いが頭の中でグルグル回っていました。家族の方の辛さを思うと、そんな事はどうでも良い事なのかも知れませんが。